

第3回中原区区民会議運営部会会議録

1 開催日時 平成25年2月20日(水) 午前10時～午前11時50分

2 開催場所 中原区役所5階505会議室

3 出席者

委員 川連部会長、富岡副部会長、板倉委員、稲富委員、反町委員、成田委員、藤嶋委員
事務局 小野副区長

企画課 川添企画課長、園田担当係長、倉見担当係長、橋本職員、深谷職員、
野並職員

こども支援室 諏佐室長、高岡担当課長、富澤課長補佐

石塚計画デザイン事務所 千葉さん、牟禮さん

4 議題

(1) 会議録確認委員の選任(公開)

(2) 第4回中原区区民会議の運営について

ア 2つ目の審議テーマについて(公開)

イ 課題調査部会委員の改選について(公開)

(3) 第4期中原区区民会議中間報告書構成案について(公開)

5 傍聴者 なし

6 会議内容

(1) 会議録確認委員の選任

反町委員を選任した。

(2) 第4回中原区区民会議の運営について

ア 2つ目の審議テーマについて

事務局 資料1の説明

板倉委員 他区と比べて中原区の特徴的な点はどういうところなのか。

諏佐室長 社会福祉協議会や民生委員児童委員に支えられている「子育てサロン」は他区には見られない取組である。また、発達に課題のある子どもに対する支援も特徴的である。情報発信については、必要としている人に必要な情報が届いているか、不安がある。

板倉委員 区内で地区ごとに特徴はあるのか。

諏佐室長 小杉地区の社会福祉協議会では、学校の子どもたちが赤ちゃんに触れることのできる「いのちの授業」という特徴的な取組がある。

成田委員 私も市の主任児童委員の会議に出ており感じているが、中原区は児童委員とこども支援室の連携が非常に良く取れている。

情報発信については、広報誌やホームページなどで情報はかなり伝わっていると感じている。こんにちは赤ちゃん訪問でも、子育てサロンの存在を多くの保護者は知っている。ただ、知っていることと実際に足を運ぶことは別問題である。先ほどの事務局の説明にもあったが、区内の居住歴が短く、こんにちは赤ちゃん訪問で初めて地域の人と話をしたという声もよく聞く。地域にどのように入って

いくつかわからないため、先へ進めない保護者も多くいるのではないだろうか。

事務局 資料2、3、4の説明

成田委員 子育てアンケートの結果からもわかるが、地域のお母さんたちは出かけるとしたら、平日の午前中である。この時間帯でゆとりがあるのは地域の高齢者である。この両者がどれだけマッチングできるかが課題である。子育てサロンではマッチングできているが、月1回のみ開催である。いつでも使える場としては、まだ不足している。

核家族が多いため、医者にかかりたい時や兄弟のいる家庭で上の子を病院へ連れて行きたい場合など、一時保育を利用するまでもないが、30分から1時間程度子どもを面倒見てもらいたいという要望は非常に多い。ここの要望を満たすために新たな制度を立ち上げるのではなく、地域力で解決できるのが、理想的である。

最近引っ越してくる方も多いうようであるが、どれだけ長く中原区に住んでもらえるかという視点でも考える必要がある。今、支援される人が20～30年先には支援する側になるので、そういう土台作りもできると良いのではないか。

事務局 中原区内で短時間、子どもの面倒を見てもらうことを依頼できる団体などはあるのか。

成田委員 区内では唯一NPO法人ワーカーズ・コレクティブばんじいという団体が行っているが、会員登録や予約などが必要である。昔であれば、ご近所で面倒を見てもらえたものである。第2子以降であれば、近所に友達も居たりして、あまり困らないのだが、第1子の場合は頼める人もおらず、困ってしまうことが多い。

藤嶋委員 アメリカに住んでいた時はフレンドシップという制度があり、高齢者の方が子どもを含めた一家の面倒を見てくれた。大変助かった記憶がある。高齢者と子どもをつなぐ仕組みづくりができれば理想的である。父親の育児参加ももっと進めば良い。

川連部会長 時間にゆとりのある高齢者は多いはずだが、なかなか地域へ出てきてもらえない。

富岡副会長 高齢者に子育て支援の担い手になってもらうことは大切だが、年齢の高い高齢者では、体力的に難しい。

SUUMO 住宅展示場のママカフェは飲み物が有料でも入りきれないほどの人が集まる。場があればあるほど、人が集まる。こども文化センターなどを活用できるのではないか。

板倉委員 私も場づくりが必要だと思う。場所があれば、担える人はたくさんいると思う。確かに高齢者だと子どもの動きに付いていけないケースがある。退職後まもない60歳代後半位しか、担い手になれないのではないだろうか。

また、子育てアンケートには母子家庭や父子家庭の意見がほとんど反映されていない。そういう視点も必要ではないか。

稲富委員 困っている人に誰かが話しかけないといけないのではないかと思っている。区

の取り組みは充実していると思うので、支援している環境へ入ってこられない人をどうにかするという取組が区民会議ならではのものになるのではないかと。

高齢者については、子育て「支援」という考え方で入ってしまうと長続きしないと思う。高齢者が子どもと「遊ぶ」という考え方はできないのだろうか。高齢者が子どもと触れ合うことで老化を防ぐ効果もあると聞く。

子育てを終えたばかりの方が支援する側になれば、子育てしている親は安心できるのではないかと。

成田委員 理想的ではあるが、子育てを終えたばかりの方の多くは仕事を再開するので、時間はかなり限定される。

稲富委員 専業主婦の方が全くいないとも考えにくいので、探せないものか。

成田委員 専業主婦で子育てしていない人は、親の介護をしている場合が多い。本当に難しいところである。

反町委員 情報を発信する側にとっては永遠のテーマであるが、必要な情報が必要な人へ届くまで発信し続けることが大切ではないかと。

また、場づくりも大切であると思う。交流の場やスペースがさらに求められており、増やしていきたい。こども文化センターや町内会館などが使える仕組みづくりを、上手く区民会議でまとめられればよいのではないかと。場があれば、担い手はいるとの意見もあった。

中原区にとっては、区民同士の交流が最も重要だと思っている。その点で、第3期区民会議での子育てふれあいカフェは成功した。乳幼児健診時にイベントを行うことで、普段わざわざイベントへ足を運ばない人が参加してくれた。こういうことがきっかけになって、地域へ目が向くようになるのではないかと。イベントに参加しても知り合いができていくという意見もあったので、知り合いができてやすいイベントも考えていきたい。

藤嶋委員 区役所コンサートは親子での参加が多いのか。

事務局 コンサートの内容はクラシックなどが多いので、年配の観覧者が多い。ただし、子育て中の方も観覧できるよう、保育室を準備している。

藤嶋委員 一つの場に他人同士が集まっても急には仲良くなれないものである。

成田委員 仲介するコーディネーターのような人がいれば、仲良くなれるのだが・・・。

川連部会長 親同士が仲良くなれる場が必要である。知った間柄になれば、少しの間、子どもを預かるくらいできるはず。

冨岡副会長 預かってもいいと思っている人はたくさんいるはずである。ただ、きっかけがない。

稲富委員 預かりOKシールでも作って家に貼っておけばよいのでは。思いつきだが。

冨岡副会長 保健所の健診ボランティアのような取組をさらに地域へ広げていければよいのではないかと。

事務局 ここまでの意見をまとめると、第3期の子育てふれあいカフェをバージョンア

ップさせることや地域で子どもを見たい人と見てもらいたい人を結びつける方法を考えるというところが要点になりそうである。

まとめるとテーマは「地域と子育て世代をつなぐ人と場づくり」、サブテーマは「届かない人にも情報を届けよう」となる。

川連部会長 第4期中原区区民会議2つ目の審議テーマは、「地域と子育て世代をつなぐ人と場づくり」とするが、文言等を事務局でもう少し整理してもらいたい。

事務局 了解した。

イ 課題調査部会委員の改選について

事務局から資料5について、説明。了承される。

(3) 第4期中原区区民会議中間報告書構成案について

事務局から資料7について、説明。了承される。

以 上